

## 事業報告書（令和 1年度）

事業名 森・川・海の生態連関の大切さをかんがえる事業——調べて・伝えて・考える

団体名 旭川源流大学実行委員会 担当者名 吉鷹一郎

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

表記の事業目的のため、「調べる」では以下の観察会及び調査を、「伝える」「考える」では総会講演会・シンポジウム及び公民館でのパネル展示（アンケート実施回収）を実施したので報告する。

毎年恒例にしている行事である旭川中流域と宇甘川流域及び足守川源流部での早春の生き物観察会を2月3日（日）9時～17時に実施した。参加対象者は一般・高校生で、会のHPで呼び掛けて募集を募ったところ約10名の参加があった。自生地保護をしている絶滅危惧種のセツブンソウ群落とアテツマンサクの老木視察、ヤマアカガエル産卵を潤貴して視察した。

3月17日（日）11時～15時、国内で唯一2018年に発見され新種記載されたハルノマルツツトビケラ *Dolichocetrus sakura* Nozaki 2018の生息地である旭川流域において生息確認の観察会を会員5名で実施。3月24日（日）9時～18時、新見市草間の自生地でユキワリソウの群落の観察と新見市千屋の茗荷谷において水生昆虫調査を約5名で実施。第10回旭川源流大学 in 吉井川を5月3日（金）～5日（日）2泊3日の宿泊研修として、吉井川源流部の赤和瀬川・吉野川・後谷川の源流部と鳥取県佐治川において吉井川源流域の水生昆虫相と2018年7月豪雨の影響を見るべく、高校生・大学生・一般の約20名で実施。第2回瀬戸内海海岸ベントス調査 in 笠岡諸島を6月16日（日）7時～21時、高校生・大学生・一般の15名で、笠岡市カブトガニ博物館視察と笠岡諸島の大飛島洲の海岸での海岸ベントス調査を瀬戸内海の貧栄養化の現状視察のために実施し、貴重な成果を見た。第10回旭川源流大学 in 旭川を7月6日（土）～7日（日）参加者15名で真庭市蒜山・津黒と新庄村の旭川源流部各地の水生昆虫相の解明調査と豪雨災害の影響被害の視察を実施。瀬戸内海のウミホタル生息地の倉敷市児島下津井の大浜海岸で8月3日（土）一般市民・高校生の約20名で生息確認調査を実施。良好な砂浜の指標生物として知られる生き物の生息を確認した。11月30日（土）～12月1日（日）新庄村毛無山周辺で地権者の許可を得て約5名でカワゲラなどの水生昆虫の調査を行った。2018年豪雨災害以来の生息が未確認となっている種の状況を追調査した。「伝える」では、6月7日（金）～7月8日（月）岡輝公民館一階ロビーにおいて「森・川・海の生き物展」と題して活動パネル展示と参加者からの聞き取りアンケート調査を岡山南高校の高校生10名の協力で実施。また、2019年総会記念講演の水生昆虫トビケラ類の第一人者大阪府立大学の谷田一三先生の講演に続き、2020年の総



会は、1月12日(日)岡山市中区沢田の操山公園里山センター多目的室において30人で実施。特別記念講演は「驚きの生物多様性～その不思議さに目をみはれ」と題し、立正大学の関根一希さんの「生物多様性の宝庫・水生昆虫の最近の研究から」および岡山県水産研究所の増成伸文さんの「甲殻類の多様性・ガザミ鉗脚の左右性」と岡山理科大学3研究室の最近の研究報告を講演して頂き、森・川・海の生態系の連関が大切なことを確認できた。さらに、8月18日(日)第5回と12月15日(日)第6回の「川に関わる環境学習を考える集い」(建部町めだかの学校)では参加者10人で森・川・海の関連を旭川と児島湾と瀬戸内海の調査を基に話し合われた。

2020年2月22日(土)兵庫陸水研究会総会(姫路市立水族館、20名)に視察参加して、川と海の生態系の連関について貴重な情報を得ることができた。別紙添付資料では、当実行委員会の事務局である岡山野生生物調査会会報の「かざぐるま」第3号に活動写真があるので、それを参照いただきたい。

## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

これまでの通り、県内の自然環境の問題点に対して、「調べて」「伝えて」「考える」のスタイルで行った。瀬戸内海と児島湾の貧栄養化問題は、旭川や吉井川の水質や生態系とどうかかわっているか。下水道整備などが貧栄養化問題にどうかかわるか。海の貧栄養化は、海苔色落ち問題や海藻減少による漁業資源の減少を起こしているが、一方、生息する海岸ベントス群集から見ると、多様性が戻っている箇所も見られる。例えば、今回の調査では大飛島海岸で見られた「イワガキ」などの生息確認は、海の多様性が戻ってきていると考えられるか。常に出入りがあり流動している森・川・海の生態系のバランスをどう持続性を持ちつつ良好に維持するか。

## 3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

岡輝公民館でのアンケートでは、聞き取り調査の対象の12名とアンケート調査に関わった高校生(岡山南高校の女子生徒)10名の22枚のアンケート調査分析から、10代の高校生から70代の年配者まで良好な身近な自然環境が昔と比べ失われたと感じていること、そして、壊された自然環境を取り戻したいと願っていることが明らかになった。

観察会や調査結果は現在も分析中だが、大飛島調査の結果をまとめることができた。別紙の資料に添付したが、未発表データのため、取り扱いには注意。ネット・印刷は不可。

## 4. 今後の課題と展望

旭川を中心に自然観察会や調査およびパネル展示会・シンポジウム・講演会などを実施したが、会員の活動量だけでは県民の意識や県政市政を動かすことは難しく、さまざまな連携を追求していきたいと考えている。さらには、これまでの自然史研究と研究者の情報を市民が自由に利用できる情報バンクが必要とされていると考えている。未発掘の先人である「岡山出身の河川生態学者、可児藤吉」の業績・生い立ちを調査して地元県民に周知されるように企画中。



(様式第8号)

⑤写真等参考資料添付

第10回旭川源流大学@吉井川・吉野川/佐治川/旭川・白賀川、5/3~5



吉野川,西栗倉2019,5,4



後山川2019,5,3



佐治川,鳥取県2019,5,3



ムラサキトビケラ 西栗倉2019,5,4



マルバネトビケラ 西栗倉2019,5,4



オオサンショウオ 吉野川2019,5,3

大飛島海岸調査6/16



マヒトデ



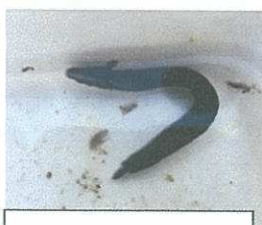
アオガイ



イワガキ



ウミウシ sp.



ミミズハゼ sp.



イソガニ sp.



二ホンスナモグリ sp.

別紙ファイル3頁

大飛

島・真鍋島 2018

年~2019年調査 海岸生物リスト

①海藻リスト (2018年4月30日調査)

②海岸動物メガロベントスリスト (2019

年6月16日調査)